

2月・歴史研修会

筋違道・太子道を歩こう

2月16日(火)、オプション行事として、2月度研修会を行った。当日は、寒波来襲により最高気温が9度との予報だったが、28名の参加を見る大盛会となった。

飛鳥の宮と斑鳩の宮をつなぐ筋違道は、斑鳩の宮造営に合わせて造られたと言われ、聖徳太子の命日に因んで、その事績を偲ぶ研修会となった。

近鉄黒田駅で、研修資料や通過する各町(田原本、三宅、川西、安堵、斑鳩)の観光資料が、配布された。この地域には、聖徳太子を敬慕する多くの伝承のほかに、三宅古墳群や治水事業に係る杵築神社、伊勢参りなどの豊かな史跡が残る。

最初の訪問地：孝霊神社で、川井代表の挨拶と孝霊天皇についての解説があった。孝霊天皇は欠史8代の一人で、記録に乏しい。今年は紀元2676年に当たるが、日本の歴史を古く見せるために、日本書紀の編纂時に、架空の天皇を作ったり、在位年数を長くしたとのことである。

太子道について、森さんが研究成果を発表された。この後で作られる官道(下ツ道など)と同規模の幅20m位の立派な道だったことが、発掘調査で確認されている。都が平城京に移った後は次第に衰退し、現在は、一部に痕跡を留めるのみである。今回訪れた安堵町の約1kmと三宅町から田原本町の約3kmの直線道路が、その痕跡と考えられている。

インターネットの「ワトソンのページ」では、GPSを使った色々な発見が報告されているが、詳しいことは森さんへご質問くださいとのこと。

コースの各所では、歴史文物知り博士達の説明が面白く、なかなか予定通りに進まない。黒田大塚古墳では、古墳の頂上に登り四方の山々を眺めた。

この付近には杵築神社が数多く点在し、4箇所を訪ねたが、いずれも素戔鳴尊を祭神としていた。どの神社にも古い絵馬が飾ってあり、「おかげ踊り」や「なもで踊り」などである。

屏風(地名)には、杵築神社と白山神社があり、聖徳太子の休憩された場所と伝承されている。聖徳太子の銅像を背に杉本さんの「聖徳太子の解説」があり、太子が摂政就任後に、推古天皇、蘇我馬子とトロイカ体制で政治を行い、「十七条の憲法」「遣隋使派遣」など数々の事績を残した。

観世流発祥の地とされる面塚では、古川さんの解説があり、「観世世阿弥」、天から翁面とともに降ってきた「結崎ネブカ」、果ては、ならやまで栽培された「大和伝統野菜」にまで話が及んだ。

この辺りでかなり遅れが深刻となり、歩行速度を上げ、糸井神社を通過、何度か道を間違えながら、油掛け地藏、吐田杵築神社と進む。

安堵町は富井さんの地元である。地域の役員をされている斧田さんの案内で「馬場塚」を見た後、昼食場所の中窪田の杵築神社に到着。杵築神社には富井さんの尽力で、お祓いと社務所の利用をお願いしていた。

まず、稲熊宮司(大神神社で定年まで権宮司を務められた)による大祓いと安全祈願が行われ、全員で玉串奉奠を行う。破格の扱いに恐縮して社務所に入ると、驚くことに、温かい野菜の味噌汁とお酒まで準備されていて、一同、感激・恐縮しながら昼食を頂き、神社を後にする。

すっかり元気を回復した一同は、飽波神社(安堵の総鎮守社)、広峰神社(素戔鳴尊が祭神、聖徳太子の飽波宮跡とされる)、上宮遺跡、成福寺(飽波葦垣宮跡とされる)を歩き、予定より1時間ほど遅れて、JR法隆寺駅に到着した。



飽波神社にて

(坂東久平)